

第10回全国少林寺拳法指導者研修会



第10回全国少林寺拳法指導者研修会(主催＝日本武道館、少林寺拳法連盟、後援＝スポーツ庁)が9月17～19日の3日間、日本武道館研修センター(千葉県勝浦市)で、全国から28名の参加者が集まり実施された。

本研修会は、武道授業において少林寺拳法授業力の向上と指導法の習得を目指し、中学、高等学校の教員や授業協力者等を対象に、我が国の伝統と文化に立脚した少林寺拳法の研修会を実施し、全国的な少林寺拳法指導者の養成と資質向上に資する目的で行われた。

■1日目(9月17日)



宗昂馬会長

開講式で、まず宗昂馬^{そうこうま}少林寺拳法連盟会長が挨拶に立ち「皆さんには頭の中を一度空っぽにいただき、素直に受け止め、少林寺拳法を通じて今の自分に何ができるのかを改めて考えながら研修会に臨んでいただきたい。

連盟としても武道必修化をより良いものにしていきたいと考えている」と述べた。

次に、吉川英夫^{よしかわひでお}日本武道館理事・事務局長が挨拶に立った。「中学校武道必修化が10年経過した。今は内容の充実が求められる段階に入っている。少林寺拳法の技法を教えるのではなく、教材として何を生徒に伝えるかが重要である。そのためには、まず自分が楽しんでやる。その姿は生徒に伝わるので、これが少林寺拳法の魅力を発信することになる。実り多い研修会になることを期待する」

開講式後は宗会長が特別講師を務め「武道必修化の意義 少林寺拳法連盟の取り組みと現状」と題して講義を行い「何事も長年続けていくことで自分の中に固定概念が生まれる。生徒にとって授業で出会った少林寺拳法が嫌な思い出にならないように柔軟な対応をしてほしい。授業では教員としての個性と少林寺拳法の教えを融合して、指導にあたっていただきたい。まずは皆さんが楽しんでください」と締めくくった。

引き続き、高坂正治^{こうさかまさはる}講師からこれまでの武道必修化の経緯や授業で武道を学ぶ目的、少林寺拳法の授業における採択状況について解説があった。

その後、大道場に移り6時間授業を想定し、中島正樹^{なかしままさき}講師が保健体育科における少林寺拳法授業の導入部分の体づくり運動を、小井寿史^{おいひさし}講師が音楽を使用した楽しい授業づくりの実践例について紹介した。

夕食後は7つの班に分かれて、研修内容の振り返りを討議し、発表を行い全体で課題の共有を図った。

■2日目(9月18日)

鎮魂行のあと、小井講師によるICT教材を活用した授業が展開され、龍王拳第一系の完成を目指し、単独動作から相対で行えるよう4人1班で動画撮影をし、動きの確認を行った。単独ではできていたことが、相対で行うと相手と呼吸を合わせる要素が加わり混乱する参加者が見受けられた。



タブレットで撮影し、相対演練の確認を行った

講義のまとめに小井講師が「互いを助け、支え合うことも含めて少林寺拳法を学ぶ意味を理解することに繋がる。生徒が相手を尊重し、協力して活動が行えるように授業を工夫してほしい」と述べた。

午後からは安田智幸^{やすだとしゆき}講師が課題解決型授業を紹介し「いろいろな考え方があるが、(上膊^{じょうはく}拔は)生徒のレベルに合わせ、腕を回すだけでよしとするか、技としてどこまでを紹介するか判断が必要である。ヒントをどこまで提示するかも含め、教師と生徒が協力して課題解決ができる授業展開を期待する」と述べた。

高坂講師の教材研究では「少林寺拳法の理法を体験しよう」をテーマに実技を行い、実際に体験した参加者からは感嘆の声があがった。

台風14号接近に伴い、公共交通機関の計画運休の影響などから急きょ予定を変更し、2日目に模擬授業を行った。各班は限られた時間の中で授業内容の検討を進め、その後各班15分の持ち時間で発表を行った。発表後には中島講師が「教え

込み型での指導では、生徒に今学んでいることが少林寺拳法であることを理解させることが必要。授業のはじめに本時の目標を伝えと生徒が考えて行動するようになり、短時間で効果を上げることに繋がる。また、別の方法としてトリガーアクションを設定して、生徒の興味・関心をひき、着眼点をもって考えさせる課題解決型を展開する方法もある。板書も工夫次第で生徒自身が進捗確認や振り返りをする材料になる。これを蓄積することでより効果的な反復練習が可能になる」とアドバイスした。

夕食後は研修室にて模擬授業を中心に2日間の講義内容の振り返りと、情報交換会を行った。

■最終日(9月19日)

予定を繰り上げ、8時から閉講式を行い、受講生を代表し千田雪乃^{ちだゆきの}(岩手県)さんに修了証が授与された。次に中島講師より研修会の講評を、最後に和田健^{わただけし}日本武道館振興課長が主催者挨拶を行い、全日程を終了した。

千田雪乃(盛岡中央高等学校附属中学校・保健体育科教諭)さんに聞く！

Q. 現在、中学校で実施している武道種目は何ですか。

「開校5年目の本校では、理事長が早稲田大学の少林寺拳法部のOBということもあり、開校以来、授業では少林寺拳法を毎年9時間実施しています」

Q. 武道授業への関わり方を教えてください。

「少林寺拳法は大学で見たことがある程度ものだったので難しそうだなと感じています。新卒2年目で、専門がバレーボールなので少林寺拳法の授業はほとんど2人の外部指導者に任せきりです(笑)」

Q. 本研修会に参加した経緯を教えてください。

「今後は自分で授業を実施できるようになりたいという思いと、外部指導者の岡部好孝^{おかべよしたか}先生の勧めで今回初めて参加しました」

Q. 生徒の少林寺拳法授業の様子はいかがですか。

「一人一人は真面目で、一生懸命に取り組んでくれています。しかし、本校は難関大学を目指す生徒が多く、積極的に運動に取り組んできた生徒が少ないのが現状です。今回の研修会の内容をそのまま授業の落とし込むのは難しいと感じました」

Q. 武道授業における課題があれば教えてください。

「基礎体力がない生徒に対しての指導法が課題です。中島講師の体づくり運動は参考になりました。学力向上には運動が密接な関わりがあると思うので、より脳の活性化に繋がるような工夫をしていきたいと思います」

Q. 講義の中で印象に残っていることを教えてください。

「高坂講師の『少林寺拳法の理法を体感しよう』です。テコの原理などを使用していて、理屈がわかったうえで、実際に自分でできたという達成感を味わえたのが面白かったです」



千田雪乃さん

